

公表

## 事業所における自己評価総括表



○事業所名	ほころと		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムを職員全員で考え、毎日違う多種多様なプログラムを実践して提供できている事。子どもたちには、より多くの経験・体験を積んでもらい自信に繋がり、「楽しかった」と言ってもらえる活動を提供している。	児童にも前もって「どのような活動をしたいか？」話し合う機会を設けて自ら考えて子ども達が楽しんでもらえるように取り組んでいます。計画した支援プログラムは保護者に公表をして、その日の内にHUGにて支援活動の様子をお伝えしており、保護者や児童の評価を保護者LINEで受けることも多く、振り返り・反省・改善を行いながら進めている。	平日はどの児童も1時間半以上の支援が出来るように取り組んでいるが、長期休暇時しか課外活動や体験学習等や個別活動の時間が持つことが出来ていないので、今後、職員も専門性を高め、5領域のうち特定した領域に重点を置いた小集団での支援プログラムを組めるように図りたいと思っています。
2	支援にあたる担当者の招集をこちらから出来る限り声掛けを行い、連携を図り、支援の輪を広げています。	効果的な支援を確保する観点から計画の作成から最低でも3か月に一度はモニタリング面談を行い、計画会議やモニタリング面談時も出来る限りこちらから声掛けをして連携参加を促しています。特に相談支援事業所や学校の担任の先生とは密に連携を図るように取り組んでいます。	日頃の活動の様子や体験利用も随時行っており、就学前の児童の無料体験利用や学校等の関係者や始良市の担当者等にもいつでも見学を実施して、ありのままの活動を見て体験できる体制を作っている。連携を広げることで自分たちも見えてこなかったことが見えてきて良い支援が出来ると思います。
3	児童が地域社会で暮らしやすいように地域住民とのふれあいや協力体制を築くようにしている。	火災・自然災害避難訓練、不審者対応訓練、置き去り防止訓練、業務継続計画訓練、救命講習等、児童も参加して安全計画に基づいて取り組んでおり、防災時に貢献出来るように地域と相互協定を結び、いざという時の備えを図っています。近くの医療機関や県の自閉症協会との交流も推進しています。	始良市でも不登校児童が多くなり、受け入れもしており、始良市や教育委員会とも会議の場を持ち、児童が安心できる居場所作りの提供を一緒に考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	STやOTなどの専門職の配置が出来ていない。	5年以上の経験豊かな保育士、児童指導員で構成はしているが、専門性の高い職員の配置にはそれなりの負担も大きく、まだオープンして1年半を過ぎた小規模事業所では余裕がない。	将来的には専門職の配置を検討したいが、現時点では今いる職員の技術。意識の向上を図り、研修や勉強の機会を与えて子どもたちが楽しんで過ごしやすい環境の整備を目指して行きたい。
2	利用児童数が増えてきて、小集団や個別活動で使用したい部屋数が足りていない。	広い指導室はあるが、小さな部屋数が限られているので、保護者との面談や会議で使うとスペース的に限りがあり足りていない状況が生まれてきている。	日々の利用児童数も10名を超える日も出てきているので、将来的には事業所を新たに設立したいが、そのためにも核となる児童発達支援管理責任者の資格を持つ人材を育てているので、経営状況と合わせて検討していきたい。
3	職員が休暇が取りやすい、育児に専念できるなど福利厚生面の充実を図りたい。	職員の数は増えたが、国の定めた基準配置以上に配置はしているが、それぞれの能力にも差があり、まだ全てのポジションが安心して交代できるほど余裕がない。	今後も職員の質の向上を図り、風通しの良い環境を保ちながら職員も家族と楽しんで過ごし、オンとオフを充実してもらえる事業所を作りたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果



事業所名	ぼこりっと
------	-------

公表日 令和7年2月1日

(内きょうだい利用4)

利用児童数 組) ※ 2 1 名

回収数 21名 割合 1 0 0 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	0	0	2	活動を見たことがない。	活動の様子は基本随時いつでも見学は可能にしております。毎日の活動の様子はHUGにてその日のうちに公開掲載しております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	20	0	0	1	活動をしている人数が不明。 可能であればST・OTの配置をしてほしい。	国の基準以上に資格者を配置しており、安全安心を提供出来るように致しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	0	0	1	なし	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	0	0	0	なし	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	2	0	1	なし	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	0	0	なし	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	0	0	1	なし	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	0	0	0	なし	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1	0	0	臨機応変に対応して頂き助かります。	計画案を作成する段階からスタッフの意見を求め計画案にも記載しており、計画の交付時はスタッフへの周知と相談支援事業所及び学校側にも交付して連携を図っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1	0	0	なし	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12	3	1	5	交流はあるが、まだコミュニケーションが少し取りにくいように楽しめていない。	毎年、様々な企画を立て一般児童との交流を図っていますが、どうしてもコロナやインフルエンザ等の感染予防の立場からも相手側との長時間の設定等が難しい部分があります。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1	0	0	なし	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0	なし	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	1	0	0	なし	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	1	0	0	なし	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1	0	1	なし	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1	0	0	なし	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	2	0	3	なし	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2	0	1	なし	
	20	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1	0	1	なし	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19	2	0	0	なし	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	0	なし	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	0	1	なし	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1	0	0	なし	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1	なし	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	1	0	1	なし	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19	1	0	1	親としてとても安心しています。スタッフへの安心感はあるが、その日の児童のメンバーによって疲れを感じることもあるようです。	利用児童数が増えてきており、学校・学年もその日で様々で、その日に空きがあれば利用したい児童もおられ、同じメンバー構成は難しいですが出来る限り年齢層や発達障害の程度に応じて心身共に健やかに育成されるように応じてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	5	0	0	一度も行きたくないと言ったことがなく予定がなければ「行く」と言います。いつも外出活動は楽しみにしている様子で満足した顔で帰ってきます。仲の良いお友達がいなくて楽しめない時もある。日によっているいます。毎日学校後のぼこりっとなさんを楽しみにしているようです。今後とも宜しくお願いします。ぼこりっとの行事を楽しみにしており「明日は何があるの?」と聞いてきます。	毎日の活動内容についても児童に「どのような活動がしたいか?」児童が主体となり活動を話し合う機会を設けて、自分たちの希望が叶い、達成感を味わえ自信に繋がるように取り組んで行ったり、「楽しかった」と言ってもらえる活動を提供したいと思っております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	1	0	0	これからも頼りにしています。よろしくお願いたします。子供たちを優しく見守り、支援下さりありがとうございます。	子ども達がよりキラキラと個性を輝かせることができるように「ぼこりっとな poco ritの名前に込められた思いをスタッフ一同胸に抱いて「個性を大切にしながら得意なことを伸ばしてほしい」願いを大切に支援を行ってまいります。

公表

事業所における自己評価結果



事業所名	ほこりっと				公表日	令和7年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		広いスペースを有効利用するために自由に机や椅子やマットを活動の形態に合わせて配置できるようにしています。	日によって不登校児童の受け入れもあり、定員を超える日もあり、その日の利用人数の調整が難しい時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		国の基準以上に資格者を配置しています。安全・安心を提供できる人員配置をして参ります。	インフルエンザやコロナ等の感染拡大で職員のみならず職員の家族が感染して欠員がやむなく出ることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		バリアフリー化はしており、車椅子での受け入れも可能になっています。また指導室とスタッフルームはオープンスタイルで目が届きやすい。	学校の教室に近い作りで落ち着いてはいるが、個別指導や小集団指導用に使える部屋があと一部屋ほしいと思う時がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		清掃・消毒は毎日行っています。体温自動測定器や二酸化炭素の排出感知器や空気清浄器（エアードック）等も完備しています。	活動内容が多様になるほど使用する備品や道具が多くなり、保管場所に苦労する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		今は室内はスペース的に十分だが、外遊びは隣接している公園をする時が多いです。	個別指導や小集団指導用にあと一部屋ほしいと思う時がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		10回利用されるごとに児童の評価を職員全員で意見交換を行っています。また保護者とは最低3か月ごとのモニタリング面談をしています。	OJT職員の育成も進めており、今後もより質の高いサービスを提供したいと思っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者からの意向や意見を把握して業務改善に取り組むように4つの委員会を設置して年に定期開催以外にも必要時開催しています。	常日頃から職員の保護者に対する対応・連携を強化して保護者の気持ちを汲み取り「聞くことが大事」という意識を高めたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		朝礼、終礼ではもちろん、その他、個別支援計画会議でも計画の立案に対する意見を述べる機会を設けています。	意見が述べやすい風通しの良い職場作りを目指しています。機会あるごとに職員もモニタリグや担当者会議にも入る機会を増やしています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	外部評価が行える機関が限られており依頼すると高額な料金が発生してしまうため見合わせています。	外部評価も公平さを持たせるためには国からの補助で定期的に行うシステムの導入を期待したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事業所内研修は毎月テーマを決めて各委員会が行い、事業所外研修は出来る限り、希望者が参加出来る機会を設けるようにしています。	セミナーや事業所外研修の研修費用が毎年上がっており、個人の費用負担を少なくしたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		保護者には前月に支援プログラムを作成して配布・公表しています。児童には前もってどのような活動がしたいかをアンケートしています。	基本利用日や利用日数が児童によりまちまちなので希望する活動に参加出来ない場合もある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者から見えてわかりやすいグラフやツールを使いアセスメントを行い、計画の立案には多種多様な連携を図って作成しています。	子どもの出来ない面ばかりでなく出来ることや強みも生かし、本人や保護者のニーズ・思いに繋がる支援をしたいと思います。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		計画の作成にあたっては職員それぞれの意見を求め、計画原案に反映し、支援の提供を行う学校や各担当者との連携を図っています。	計画会議に一堂に支援する担当者が集まる事が難しいがZOOMなども使って参加してもらえるように声掛け努力が必要である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		出来上がった計画案は必ず職員の意見も書き込み保護者にも通知しています。交付した計画は職員に周知させ子どもの最善の利益を優先考慮して支援を進めています。	長期休暇などの後では支援時間が長いこともあり、計画の達成度が高いが、上学年になるほど支援時間が限られて伸びが遅く、思うように支援が進まない時がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		ほこりっとでは現場の職員から支援現場での行動観察や興味関心、コミュニケーション、学習スタイルなどを把握してもらい情報提供書として連携会議時に活用しています。	さらに専門的な評価ツールが使いこなせる人材を育成して、保護者に質の高い専門的な評価を示すアセスメントを提供したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ほこりっとでは子どもの豊かな成長を保障するため、支援者が連携し、地域全体で一体となって支援が行えるように日々努力を重ねています。学校教育から就労支援機関への切れ目のない支援に加えて、ライフステージの各段階に応じた関係者の支援の連携を充実させていくことが重要だと認識しています。	障害児本人だけでなく保護者・家族にも寄り添ったきめ細やかな対応や質の高いサービスを持続的に利用出来る環境を作る事が共生する社会の実現につながると思います
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員全員で一つのチームとして割り当て分担を決めて、準備の段階から子どもたちが楽しく意欲的に取り組めるように立案計画をしています。	子どもたちには、より多くの経験・体験を積んでもらい自信に繋がりと、「楽しかった」と言ってもらえる活動を提供したい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		活動がマンネリ化しないように保護者には毎月の支援プログラム表を前月に渡しており、細かな支援内容は現場のスタッフが一つのチームとして割り当て分担を決め準備から取り組んでいます。	終了した活動の様子はその日のうちにHUGに掲載して保護者LINEから評価を受けることもあり、励みにもなれば、次の活動の在り方への課題にもなっている。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		活動の内容によって、全体集団・小集団・個別と分けて取り組んでいます。	どうしても平日の活動よりも長期休暇の方が個別や小集団での活動時間が多くなってしまいます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		打ち合わせは前日か朝礼後に必ず行い、職員全員で一つのチームとして割り当て分担を決めて、準備の段階から取り組んでいます。	コロナ、インフルエンザ感染やその日の状況次第で活動内容の変更もあり得るが、職員LINEで情報共有をいち早くして確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		支援終了後には、支援時の写真・動画等も含めて振り返り、良かった点・悪かった点・改善点などを職員全員で話し合っています。	保護者からのLINE等で伝えられる活動に対しての子どもの反応や思い、保護者からの感想・評価に耳を傾け、職員で共有して次回の活動に生かすようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		適正に記録を取れるように、HUGを使い利用回数10回ごとに支援の検証会議を行い支援の方向性について話し合い記録を残しています。	記録も5領域に分けてわかりやすく記録するようにしています。記録の取り方も職員研修をして質の向上を図りたい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		最低でも3か月に一度のモニタリング面談を行っています。その際にはこちらから声掛けをして支援する事業所や学校側とも連携を図るよう努めています。	仕事や育児に追われている保護者との面談時間が遅い時間帯とかになり負担をかけ申し訳ない。なるべく1時間以内での設定を心がけています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	<input type="radio"/>		4つの基本活動を含めた総合的な支援を行っています。ぼこりっとは学校や家庭とは異なる第三の居場所としてその子らしく安心・安全に過ごせる場として支援しております。	年代に応じた親子の関係性を踏まえた家族支援も充実させていきたい。メンタル面の課題や不登校への支援体制も整備したい。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>		活動内容についても児童に「どのような事をしてみたいか？」児童が主体となり活動を話し合う機会を設けて、自分たちの希望が叶い達成感を味わえ自信に繋がるようにしています。	日々の小さな自己選択・自己決定を積み重ね「自分で決めることができる」という自信をつけてもらう力を伸ばしたい。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		出来る限りこちらから声掛けをして会議に参画してもらるように動いています。最近では始良市や学校、教育委員会とも連携の輪が広がっています。	特に学校側とは放課後等デイサービスとの役割分担を明確にしたいので必ず連携を図り、機会あるごとに教室での児童の様子を見たり、先生がこちらにいつでも見学をする機会をつくっています。
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		必要ならば病院からの情報提供書や心理、ST,OTからのアドバイスも受けている。会議にも病院側からの参画もお願いしています。	医療関係者や行政、教育委員会などとも連携は図るが会議参加が時間的に難しい場合はZOOMなどを利用して短時間でも連携協力を図っています。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>		保護者LINEとHUGにて利用予定・変更等は情報共有をしておき、下校時間も保護者LINEもしくは学級通信で確認はしています。保護者LINEは各職員携帯で随時確認が取れ、職員LINEで共有化しています。	たまにWi-Fi環境がない時は連絡が遅れることはありますが、時間等の確認が出来ない時は学校側に即連絡を入れています。学校の連携の窓口として教頭先生、コーディネーターの先生へ連絡しています。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input type="radio"/>		就学前の児童においては今の利用している施設との連携やお子様の様子を見学して情報共有を図り、就学前から不安のないように体験利用も組んでいます。	就学してもしばらくは支援を適切に行うためにも就学前の保育園や幼稚園の先生に相談やアドバイスをもらえる連携体制をお願いしています。	
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input type="radio"/>		現在、中学生までしか在籍がなく例はないが、保護者からの依頼があれば就労支援やグループホーム等の情報を提供は可能です。	就労支援施設やグループホーム、病院の地域連携室ともネットワークを築いており、経験豊富なスタッフが移行までの支援に応じれる体制はある。	
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		出来る限りセンターとの連携は図っており、会議や研修にも参加しています。目標達成のための改善提案や支援の在り方の指導を受けるようにしています。	発達支援を専門に研究、知識がある講師の研修やセミナーにも職員に受講してもらえる機会を多くして質の向上を図りたい。	
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		現在、児童クラブと併用して利用が可能な児童も増えており、近くの公園や施設での交流を図ったり、地域であるイベント参加や地域に根差した交流を検討しています。	鹿児島県自閉症協会のこどもイベント参加や地域でのイベント行事にも参加する機会を保護者にも発信して地域の子どものとの交流を図っています。	
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>		始良市の子供部会を中心に自立支援協議会には積極的に参加をしております。	始良市の障がい児への福祉の現状を把握する事にもなるので協議会や研修にも参加したり、不登校児童について教育委員会の協議会にも参加しており支援の輪を広げたい。	
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		常日頃から保護者との信頼関係を保つように気持ちの良い挨拶、保護者の気持ちを汲み取る「聞くことが大事」を意識して保護者の方と接するようにはしています。送迎の際にも一つでもデイの様子をお伝えするように取り組んでいます。	支援にあたっては保護者からの要望を吸い上げるように児童本人はもちろん保護者の意見をしっかりと聞き、ご家族の意向、抱える障害、悩み、ご家庭の状況まで多岐にわたり、日頃から連携を図るよう努めます。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		毎年11月頃に開催し、家族や支援される学校、関係機関にも参加が出来る公開療育、保護者交流会、ペアレントプログラム（外部講師）をすでに2回実施しています。	令和7年度にはペアレントトレーニング（基本）を実施する予定である。家族や児童に対しても随時外部での交流会や研修会への案内は発信していきます。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		見学・体験・相談はいつでも受け入れをしておき、その際から契約時だけでなく事前から利用についての説明を保護者が不安を抱かないように丁寧な説明を心がけています。	始良市でも鹿児島市と同様に負担上限額の保護者負担が導入されることへの保護者からの不安の声が聞かれるようになってきました。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		子どもの年齢及び発達の程度に応じて、児童・保護者の意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身共に健やかに育成されるように面談を実施しております。	障害児本人だけでなく保護者・家族にも寄り添ったきめ細やかな対応や質の高いサービスを持続的に利用出来る環境を作る事で共生する社会の実現を目指します。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画会議を開催して、5領域とのつながりを明確化した支援プログラムを保護者のニーズに沿って作成して支援内容の説明を行い計画を立案して、同意を受けて計画書を保護者と相談支援に交付しています。	子どもの発達や障害の特性・行動の特徴を理解し、成長を促進し、将来の社会参加をスムーズに行えるように5領域でのアセスメントを行い、総合的な支援が提供できる計画を立てて説明しています。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談には随時保護者LINEや電話で受けており、それ以外でも計画が順調に進んでいるかどうか3か月に1回はモニタリング面談を実施しており、家族からの子育ての悩みや将来への不安に適切に対応できる機会を作っています。	経験豊かな人材を確保しており、専門的な支援の強化を図るために、より高い支援の専門性を持つ職員の配置体制を取り、強度行動障害支援者や医療的ケア児等コーディネーターも配置しています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		毎年11月頃に保護者交流会やその他、地域交流会も開催し交流の場を設けるようにしております。きょうだい児にも県の自閉症協会の協力も得て水泳教室等の交流の機会を提供出来る機会を発信しております。	きょうだいで利用される家庭も増えており、きょうだいそれぞれの特性や障害も違う事から家庭内での対応に苦慮している保護者の悩みを聞くことが多くなり支援の必要性を感じています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		随時、相談や苦情の受け入れもしており、対応マニュアルも整備して体制の一本化をしており、相談や苦情に迅速に対応出来る検討委員会も設立して強化を図り、苦情の解決対応は記録に残し掲示公表しています。	公平な立場からのアドバイザーとして第三者委員も設定しています。職員も苦情解決研修や各種のセミナー受講、安全計画に基づく内外研修を実施して力を入れております。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎日の保護者LINE・HUGに加え、ぼこりっこのホームページやワムネットにも掲載をして情報発信に努めています。	インスタグラムでも発信しているが、児童の個人情報取り扱いもあり、時間が取れず季節行事程度の掲載になっている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報の取り扱い。保護規定を保護者に説明して同意書を交わしており、管理についても窓口・管理・保管については万全な体制を図り、危機管理防止委員会も設立して事業所内研修も行っています。	事業所の外で気軽に個人情報を話さない。個人情報が入っているパソコンのウイルス対策。職員のマイナンバー番号の管理等、仕事上職員が個人情報の取り扱いが多いので管理体制は万全にしていきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		常日頃から保護者との信頼関係を保つように気持ちの良い挨拶、保護者の気持ちを汲み取る「聞くことが大事」を意識して保護者の方と接するようにはしています。送迎の際にも一つでもデイの様子をお伝えするように取り組んでいます。	デイの様子を日頃から保護者に発信出来れば、支援内容の理解がしやすく、食い違いも起きにくくなるのでコミュニケーションの大切さを学び取り、連携を図るようにしたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		「災害時において、企業は地域に貢献する」を基本理念に取り組んでおり、自治会を通じて地域住民との地域防災協定を結び、防火訓練、公園清掃、焼き芋会等、地域住民と協力して相互参加しています。	事業所の前が通学路や公園にもなっているので不審者からの緊急避難・通報場所として「子ども110番の家」の設置を警察と協力して行いたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは策定して職員へ周知させており、事故、緊急災害、防犯、感染状況については発生と共に速やかに連絡体制取ります。安全計画に基づき各訓練・安全点検を実施しています。	毎年、防災訓練（2回）、BCP訓練（2回）感染予防訓練（2回）、不審者対応訓練（1回）、置き去り防止訓練（1回）、感染予防研修（2回）にも取り組んで安全管理の徹底を図っています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）は感染症と自然災害の計画を策定しており、必要な研修と訓練をそれぞれ年1回と新人研修時に行っています。	国内においても近年大きな自然災害が起こっているため児童の命を守る事を最優先に考え、避難経路や避難場所・方法について検討し、地域との協力・連携体制を作りたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		病院受診・定期服薬やアレルギー等については事前調査票の記入と共に必要に応じて主治医の意見書、診断書、薬剤情報提供書を提出してもらい確認をしています。	てんかん発作やアレルギー等をもつお子様もいるので職員にも発作時の対応や観察ポイント等を普段からイメージトレーニングをしたり、落ち着いた対応が出来るように必要な物品の準備はしていきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	○	現時点では食物アレルギーがある児童はいませんが、必要な場合には医師の指示書提出やおやつ、調理実習、昼食等に入っている食物成分の確認をして完全除去を原則と致します。	食物アレルギーがある場合は医師の指示書の提出依頼はもちろん、命の危険と隣り合わせの場合も少なくないことから特別扱いに受け取られる差別等への配慮を十分に行い、命を守る事を最優先に対応したい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成した安全計画に基づき、施設・設備・事業所外環境の安全点検を月ごとに決めて点検・見直しをしています。児童の安全管理・指導に務めています。	安全計画の月ごとの安全点検の沿って点検や訓練を行っているが、児童の安全意識を向上させる為にも地域防災センターの活用や実践した避難場所までの移動訓練も取り組んでいきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		火災避難訓練、不審者対応訓練、置き去り防止訓練等は前もって児童の参加を保護者に通達して促しています。	職員には救命講習・AEDの取り扱い講習は行っていますが、AED装置の設置が近くの同系列の託児所しか設置していないので今後検討したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故防止マニュアルの策定をしており、インシデントアクシデント報告を活用し、危機管理事故防止対策検討委員会も設置して再発防止に力を入れています。	子どもは危険予知が低いので、衝動的に行動する傾向もあるので危険に対する認識を意識づけた。行政にも必要改善策を講じられるように務めています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止対策検討委員会を設立しており、年に最低3回は会議を開催し、虐待の事例やチェックリストを活用して職員の意識を高めています。	見ていないところで起こりやすいので、日常の支援体制の見直しや事業内に監視カメラの設置や車内のドライブレコーダーを検討しています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束適正化検討委員会を設立しており年の最低3回は会議を開催し、身体拘束の適正化の推進の為の研修も行っています。	現時点では身体拘束を行う事例はなく、身体拘束廃止を実施している。職員にもチェックリストを活用して意識の向上を図りたい。